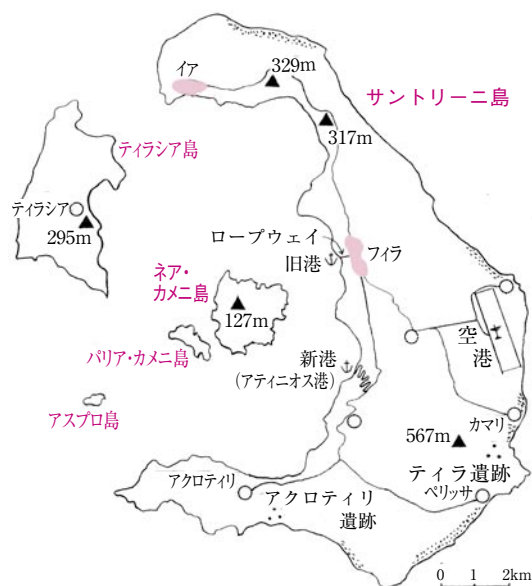


エーゲ海のサントリーニ島

奈良大学名誉教授 坂本 英夫

2002年2月25日から3月11日まで奈良大学地理学科の海外巡検旅行でイタリア、ギリシャ、イスタンブール等を訪問した。その間、エーゲ海に浮かぶサントリーニ島に3泊4日滞在した。エーゲ海にある島々のうち、この島が有名な理由は海上カルデラ（二重式火山島）で独特の景観をもっているからである。



I 火山島の地形

紀元前1450年の大噴火によって現在の地形となったが、当時人口5000人の町ティラが全滅したとされる。このため「アトランティス大陸」の伝説の地でもある。正確に言えば、サントリーニは爆裂によって大小5つの島から成っている。ネア・カメニ島は中央火口丘に相当し、この島は山頂部に火口を持っていて、いまなお噴気をあげている。

このネア・カメニ島には集落はないが、島内は自由に見学できる。ネア・カメニ島を取り囲む3つの島が外輪山に相当し、内側が急な崖、外側（外洋側）が緩斜面となっている。

ふつうサントリーニと呼ばれるのは主島のサントリーニ島で、正式にはティラ島である。現地の人はサントリーニと濁って発音する。サントリーニ島の面積は76km²、伊豆大島（91km²）よりひとまわり小さい。冬の人口は約8,000人であるが、観光客が増える夏は3万人にふくれあがる。外洋に面して5か所ばかりビーチがあり、夏の海岸は賑わう。ただし、火山性の土壤なので砂の色は黒い。



ネア・カメニ島の火口 噴気が出ている



サントリーニ島・イアからティラシア島を望む 外洋側は緩斜面



サントリーニ島の外洋側斜面 中央左側は野菜畑

II 集落の立地

この島の最大の産業は観光である。内湾の海面からそびえ立つ、200~300mの急崖上に白い家々や教会が立ち並んでいる独特の景観が呼び物である。いわば外輪山の稜線にあたる部分にホテルやレストランのテラスがあり、航行する外洋船や青い海、日没などが眺められるし、それがポスターやカレンダーにエーゲ海の風景写真として紹介されている。私たちが訪れた3月上旬はまだシーズンオフであったので、ホテル、レストラン、店舗、別荘の大部分は閉鎖したままで、島内は閑散としていた。この

ような建物が稜線上に集中しているのは不自然である。観察してみると、島の生活拠点となる施設



フィラの町と旧港 層理とジグザグ道路

は稜線からやや下がった外洋寄りに位置する。幹線道路、バス停はそうであり、いくつかの集落は中腹の緩斜面や外洋寄りに立地している。島の中心フィラの町の地元民用の小売店、スーパー、レストランなどのある中心街は稜線より下がった東側の緩斜面に位置している。

ティラ遺跡やアクロティリ遺跡の位置からみれば、古代からの島の中心は南部にあったといえる。前者は野ざらし状態であるが、後者は発掘中で見学できる。ギリシャ人のアイデンティティを示す景観として、ギリシャ正教の教会が島内くまなく分布していて、41の教会と4つの修道院がある。島の最高地点567mには大きな修道院があって、島内のどこからも眺められる。

III 土地利用

エーゲ海の島々の植生は貧弱ではげ山が多いが、訪れた時は雨期の後なので、島は一応緑に覆われていた。牧草地もあるが、耕作放棄状態の畑も多い。フィラの近くでは野菜やハーブなど、すぐに食卓に出せる作物が栽培されている。

農業としてはブドウ栽培が重要である。一般に地中海地方のブドウの木は、高さ1mくらいの杭につるを絡ませて栽培する。この島では冬から春にかけては杭もなく、つるをグルグル巻きにしたまま地面に置いてある。島の各所にワインの醸造場があり、訪れれば見学、試飲、即売も可能である。購入して、夜にホテルで痛飲した学生もいた。

IV 水事情

サントリーニも離島につきものの水問題がある。集落ごとに共同の井戸があり、民家では天水を蓄えている。それらは飲料水以外の生活用水に使う。地下水には海水が含まれているので、シャワーをあびても完全にはサッパリしない。本土から大量の生活用水が運搬船によって島に持ち込まれる。大きいホテルやレストランは港にきた運搬船から水を購入する。夏期は島内を水運送車が走り回る。いずれにしても、島の人々は市販のミネラルウォーターを購入して飲料水としている。島内のスーパーマーケットには巨大な水のペットボトルが並んでいる。

海水を真水に変える蒸留装置はミコノス島にあるが、サントリーニ島にはない。夏期の観光客の増加は深刻な水不足を招く。3月に訪れた筆者らは、ホテルで「水の節約を」という掲示をみたが、入浴はできた。地中海性気候の下、夏場の入浴は困難であろう。

本稿作成にあたり、ギリシャ政府観光局の石本東生氏には、地図のご提供と水事情調査をお願いした。厚くお礼申し上げます。